

繪本
豐臣勲功記

初編
九

遠13
2209
9



正八遠13
番 2209
巻 9

繪本豊臣勲功記初編卷之九

目録

後吉郎執宥犬千代缺仁藉

附 懇勸忠節

義元將大軍攻陷諸扶寨

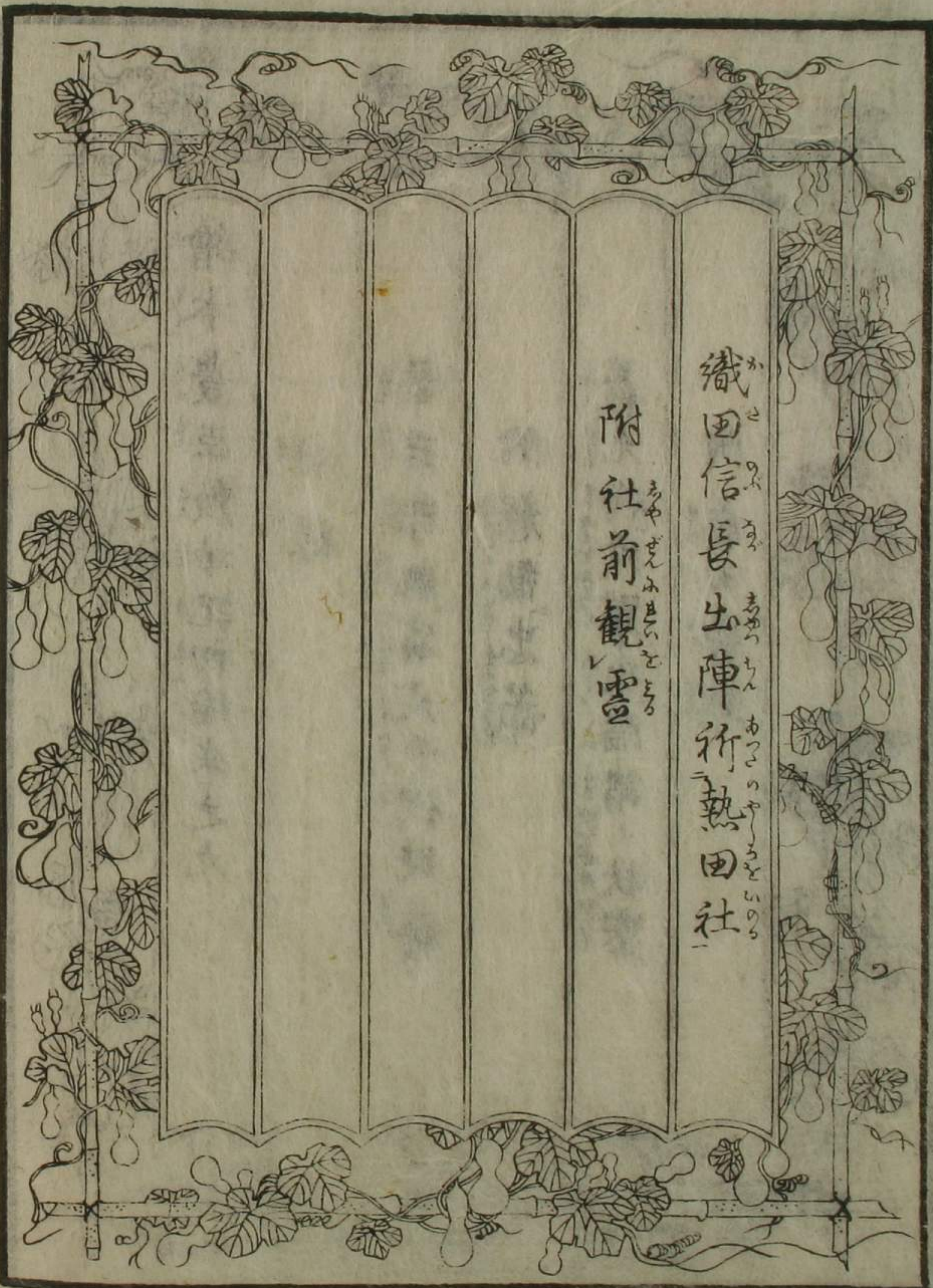
附 前田勇戦

豊臣記初編卷之九

目録

織田信長出陣祈熱田社

附社前觀雪



繪本豊臣勲功記初編卷之九

江戸 八功舎徳水刑補

藤吉郎執宿犬千代缺籍属懇勸忠節

忠節の心堅固るれば楮袍も却て鍊衣ふきまじり。茲ふ前田

犬千代未日戦功すられて孫四郎利家ハ織田殿の扈從連まき出頭

せ。が。慮さうける諛者の舌頭ふあざむられて。這ふひつもの災

出来。う。こまが。うめは。從近ハ信長の御前と遠ざけられ。整居

し。在られ。る。が。這遣今川上洛の赴條と听と奇しく。勇氣よ

勝。う。少年る。れ。心。中。さ。る。が。焦。る。め。く。君。も。定。む。防。戦。の

御。准。備。あ。る。ま。き。と。る。が。小。勢。と。も。く。大。軍。に。嚮。な。る。の。軍

さ。れ。ば。誠。に。九。死。一。生。の。濟。合。戦。ま。あ。る。ま。き。よ。最。朽。憾。ハ。這。犬。千。代



あり。身みは秋毫あきごうも過失あやまちありて。清前せいぜんへ出でる律りつ綱ななをぞ。憊うる
 大事だいじは暨あぶとりのとも。出陣しゅつじんありぬ。残念ざんげんさ。いづらんせん。沈吟しんげん
 せ。が。け。卿けい先達せんたつ婚姻こんいんの。媒言ばいげんせられし。木下きのした藤吉郎とうきちろう秀
 吉よしと。一般いっぺんありぬ。懇切こんせつの支親ししんも。渠かれは憑たもて清前せいぜんの怒いかと。
 解げ勸かんせんめ。と思慮しりょせらる。潜密ひそかは木下きのしたが家いえに至いたり。對面たいめん
 ありて。心中しんちゆうは。單たんに。譚たんて。憑たもてけ。藤吉郎とうきちろうも。預あてより。
 犬千代いぬちんぢが忠志ちゅうしありて。誤過あやまちあるきを知しる。由よしも。木下きのしたこれと厭いとを
 一ひとく思おもひ。直ただに。信長のぶながの清せい茶ぢは。出でる。さ。ま。ま。く。勸解かんげて。陪言ばいげんし。れ
 と。織田おだ殿とのさら。諾受だくじゆみ。右左みぎひだりの時日ときひと。ま。ま。ま。ま。ま。今川けいせん
 義元よしかげ。既すでに。参州さんしゅう岡崎おかざきを。進すすま。り。近ちかき。當國とうこく智多ちたの郡ぐん
三尾の境と藩と郡地は一ひと乱入らんにゅうま。づ。き。由よしと。听き。茶ぢ。回わい。犬千代いぬちんぢお。ひ。小孫こまご。

存ぞん木下きのしたは。歎なげき。今川けいせんと。防ぼぐ。の。戦場せんばうは。打死うちし。清免せいめんあり。や。や。や。
 訴う詔しよし。これ。と。憑たもて。藤吉郎とうきちろう秀吉しゆきちも。け。律りつを。預あて
 懐おもひ。ける。も。亦また。復また。信長のぶながの。清せい茶ぢは。復また。候こう。今川けいせん既すでに。三河路さんかろを。
 軍陣ぐんじんを。進すすめ。ぬ。勢せいは。五萬ごまんと。美听みき。山野林谷やんやりんたを。あ。ま。ま。な。て。
 大燎たいりやうの。光天ひかりてんと。こ。が。一ひと。岡おかの。叫喚さけびを。河海かかいは。響ひびき。て。夥あまたし。き。所ところ
 観かんる。わ。ば。老臣らうしん連れんの。怖おそる。も。實じつに。理ことわりと。思おもて。ぬ。君きみの。あ。い。り。ゆ。く
 清合戦せいがくせんあり。と。思おもは。れ。ぬ。や。と。言い。状じやうま。れ。ぬ。上總かみづま。今けい。最さい。謀ぼう。し。き
 相顔あひづらし。む。ひ。藤吉郎とうきちろうと。清せい。覽らん。と。某方そのかた予よは。叔しやく。り。合戦がくせんの
 事ことを。勸すすめ。る。が。その。稟條りやうじょうを。心こころ得とぬ。何なにも。思おもひ。杖さのある。事ことは
 や。と。宣のたまふ。木下きのした秀吉しゆきち。合戦がくせんの。意い起おこる。良勇士りやうゆうしと。い
 一ひと個こも。欲ほき。律りつふ。ぬ。り。宛あても。萬卒まんそくの。獲とる。や。も。れ。も。猶なほ。一將いつしやう

得がさうき。怯勇士と缺籍一む。斯る時節は清遠役をさし憚
るが。厥意と得む。訝一きす。問すのうま。と听て信長眉を蹙め。
予何の日後良武士と缺籍一するやある。木下何と戯や謂と。
鞭然と笑をせむ。と。這をあひぞ宣時と藤吉郎進倚。這凡
度頻ふ頼ひのせと。清教のるき茶田が緯。渠が心中ゆつてのわふ。
勇中一、は。清怒も顧む。斯中を清勸解のをさる。大千代屢
小臣よ。嘆てのま。這遭こそ我君の清大事ぞと覺て。大槩
誰何も命と捨て。防戦の緯ある。咱獨のを怨る身。君の清
と駭る緯。憚りわやく。今川勢と見ると否。一番駭は馳蒐く。
戦損まなく存れども。清缺籍の身の悲哀さ。骸ふぬても朋輩と
一列は清賢あるま。と。落涙るをゆせ。と。看る心の痛く。

けは斯の言状。つる。と稟をを信長听し。良武士と執
う。ちの。渠が緯。とありつる。渠の切く救う。某方渠を
然るまふ。思ひつる。不審され。と慮の外。清氣色るれば。
秀吉返を詞もあ。悠くとて退出る。茶田も斯と告もせん。
備謀て自害やせん。と其日の渠が意と慰め。軍の準備一と
心を勵す。還て後。既十八日の黄昏。向とて来ふけるが。
明天は織田殿出陣す。有無の一戦を。む。事と決まる。
胸小逼る。いう。ちの。犬千代。援群の大功を成させ。其功
勞と謂達て。缺籍清免と願う。と憤ふ茶田と周。不
又手も足下の清缺籍と。わ。宥め。君あるふ。と
宣ふ。押返。操言と。を在論輩と。小臣も。却て清不

自と蒙りたれど。今なるふとも詮く。臣たるは足下と小臣と。泣く
 ろぬ親もや名只管稟懐へん心と碎く甲斐もや。近來面
 目を失ふや。所詮明日の君も出陣まじく。十死一生の合戦
 あら。然すれ君も。今宵と一期と思ひ。きり玉ふと見え。又
 眞土黄泉の街少。貴賤の差別を。とうや。茲も足下も小臣も。
 同ト戦場よ戦死す。我君万一毆もむ。俺們二人清路先
 の蓬が露と拂えんを。倘も。咱倭戦死して。主君の清運最も
 之。久々榮て在ま。忠義よ命と捨。の。亡骸の。の
 清缺籍。却救免るらんや。虎豹の皮の。何と
 武士の死。その後。名の潔き。泪ぞ。今天の有。明天の既
 亡き骸とある身と。如夢幻響と説。俺們が身の

うらら。缺籍の免るも免り。百奉の命長くれ。おの。の
 の違。然。思。茶田刀。檢詢。前田犬千代。それ。で
 中。我身。足下。執者。も。所。投。ぬ。け。身。の。過。を。
 君の憎。と思。り。ま。の。の。今。生。を。の。過。を。す。ト。
 右。も。左。も。小。子。を。生。か。の。緒。を。命。を。明。天。戦。場。向。ひ
 へ。一。人。の。も。買。あり。敵。徒。の。兵。の。敵。捉。て。箇。魔。の。廳。よ
 持。齋。な。婆。の。纏。頭。と。の。を。お。う。修。羅。王。を。怒。も。せん。
 且。主。君。が。千。奉。の。后。の。再。會。と。待。て。ま。君。居。三。世。の。睡。せん。
 と。思。ふ。今。中。の。迷。雲。霧。朦。朧。の。夢。の。醒。か。ら。今。悔。む。ん
 缺。籍。の。身。も。明。天。戦。場。向。ひ。も。孰。が。隊。伍。と。借。バ
 與。伍。べき。其。の。意。の。惱。と。と。鬼。神。と。欺。く。犬。千。代。も。奉。を

豊臣記初編九



五

前田大十代
木下秀吉
激進せり
城は九根の
赴く

豊臣記初編九



おて歎息を木下これと慰めて謂やう。是より乃士預てより。是より
 當のあるものと。厥の思と悩せど。九根の佐久間大將の足下
 ふも好ふうければ。乃士も亦懇意なり。是より固て脱快より。足下
 が緯と契約おきぬ。遂く彼等より赴きて忠義を勵むよ
 登し。丹も九根就馬頭の両は名を。敵士の蒐はなれ。新隊
 の兵の進来る。响へ。恰も破竹の像くある。其軍と隊と勇
 氣と奮ひ。名と海内は响を。涯底とる。勇を慰め。淡
 野孫兵清は書翰と齎せ。前田と偕よ。出起せり。清洲より
 九根は。六里より近き路なれば。登くも彼所へ着む。木下が
 書翰と出し。詞緯と告る。佐久間大將。素より犬千代と親
 しき中あり。増て淡野が陪従て。藤吉郎が書翰もあはれ。

異儀あり。は。請に容實。片腕と得たり。喜びあり。てを
 款待ける。其の備。鷲頭の守將。織田玄蕃。尾近江守。依
 今川勢の猛威は怖。斬るは。小勢とめて。牢城決ても。稱ひ
 が。急ぎ加勢と。清洲へ注伸と達る。緯。實は。掃の
 齒と挽が如し。是より。清洲の城下。百姓商工。食都て。事の
 地より沸する。心根し。狼狽。燕雀。資財とを。妻子と伴て
 ち。惑ひ。肝。親も。身み。迷ひ。走る。理ある。然ども。城を
 信長は。一とも。強き。む。緯。平生より。も。猶。穩。鎮。却て。在
 ち。木下。秀吉。泰朝。今川。義元。を。既。み。方。を。り
 の。軍。と。率。ひ。智。多。の。郡。へ。乱。入。し。鷲。頭。九。根。の。兩。城。へ。攻。蒐
 らん。する。所。体。な。れ。丹。下。二。ヶ。所。の。要。涯。へ。清。勢。と。揮。られ。

と言状みまふ大将信長。然る彼所のいさへ。平自身。純喬ひ
 是と較えんと思ひぬれ。徒ふ兵士と別て。彼要涯へ揮る。乃ち
 一割や丹下の両城。清洲の方へ迎ければ。多くもあはぬ軍兵を用
 り。さきば。揮安とも。詮あらんと宣ふを。藤吉郎承所也。丹下へ
 自軍の地。近く。敵地。隔る。りとも。彼両城の要涯こそ。君の
 清運の用。せむ。最大切ある。若かり。然る。よ。固て。彼二ヶ所。揮
 られ。守將。お。いら。覺く。勇ある。武士。あ。ら。守ら。せ。練。あ。ら。じ。
 开も。自軍。ふ。七箇所。の。若と。次第。よ。連。これ。ども。四ヶ所。敵。不。墜。さ。る
 盈。一。然る。ふ。今。川。義元。の。武勇。古今。の。絶倫。あれ。ども。智慮。浅。く。一。七
 厥。が。う。不。驕。奢。我。慢。の。癖。あれ。ば。諸。勢。と。烈。き。敵。と。挑。ん。だ。隊。伍。疎。ま
 攻。進。あ。ん。其。勢。勝。ふ。乘。る。响。の。總。軍。大。本。丹。下。不。備。ひ。南。北。二。箇

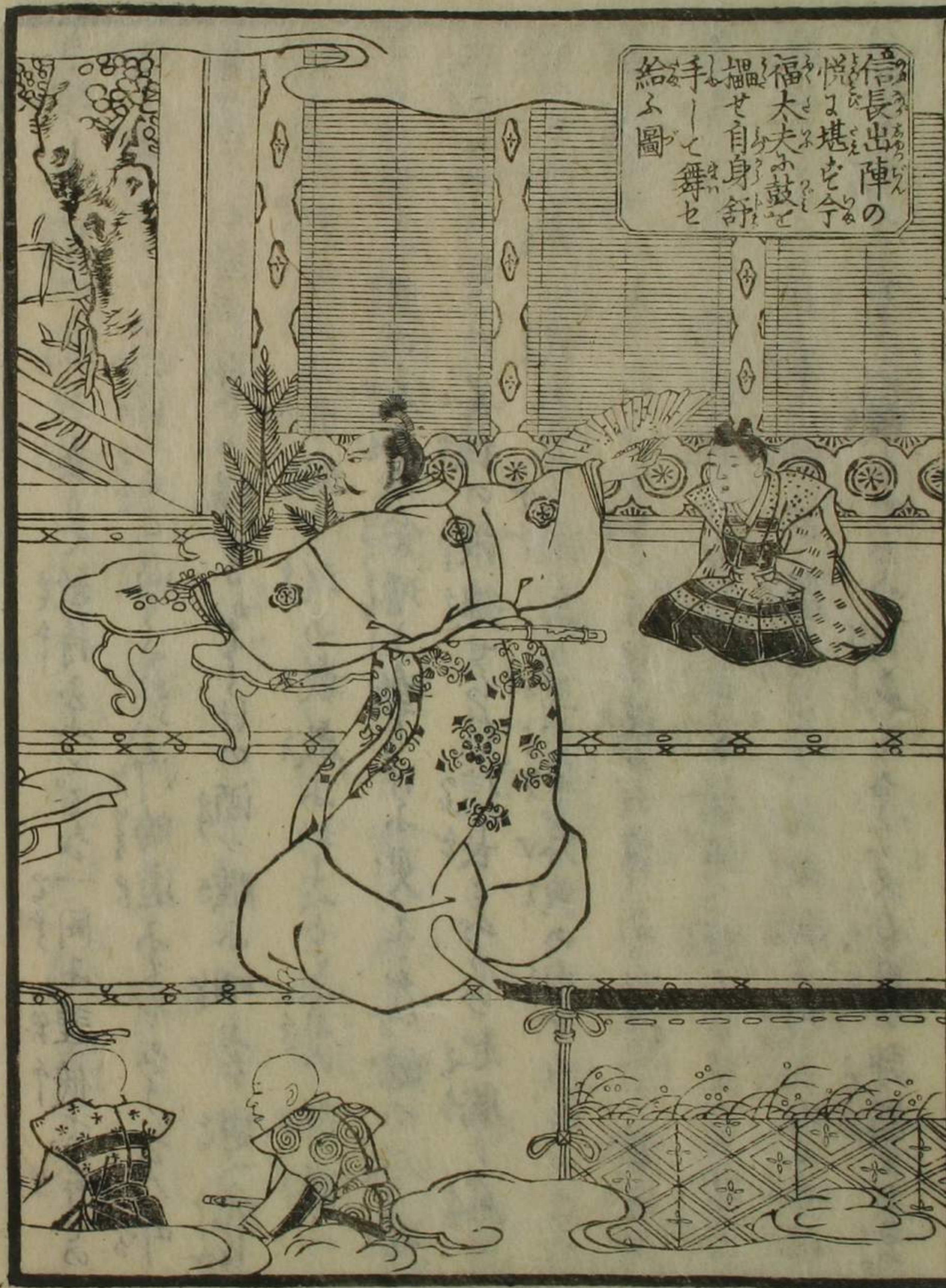
中嶋も不
 會多郡不
 在津津丸
 根鳴海の
 南里口で
 二ヶ所の海
 近く丸根
 一ヶ所

所を攻着ん。然らん响の義元の本陣。わらども。小勢あり。其响我君
 旗と卷。銜の七寸と結。たれて。惜く。地。ふ。少。扮。む。ひ。中。將。の。間。道。より
 義元の本陣あり。田樂窪へ。破。投。て。敵。兵。方。僅。く。勝。奢。心。怠。り。氣
 後。ひ。稀。寛。解。て。由。断。し。て。不。と。隊。疾。く。毆。せ。む。大。將。を。伐
 捕んこと。網。裡。の。魚。より。易。く。らん。と。叫。き。り。ま。と。所。し。め。され。鐵。田。殿
 深く喜び。む。ひ。藤吉郎。が。手。と。掌。て。孫。兵。子。房。も。足。下。大。奈。何
 で。賢。ぶ。倅。け。ん。秘。ま。べ。し。と。宣。ひ。つ。然。る。敵。地。に。近。つ。る
 鷲。頭。丸。根。中。嶋。う。ら。善。祥。寺。等。の。若。あり。兵。士。は。銳。氣。と。添
 ろんと。明日。卯。の。刻。の。蚤。天。ふ。大。將。さ。ら。出。陣。さ。る。心。と。猛。お
 勇。と。烈。し。解。成。られ。よ。と。使。者。と。り。て。嚴。お。指。揮。と。傳。へ。ら。る。と

義元將大軍攻陷諸扶寨 附 前田勇戦

雄ある哉。織田上總介平信長。終に無尺の胸中。百万の兵士
 や。たらくん。智ある哉。木下藤吉。所秀吉。只一疋の心の肉。古今
 功名の謀士やあらん。義元五万の大軍。既尾州へ攻投ぬれども。
 蟻蟻の群と看るともせ。先や軍神と祭らんと。其準備と做
 む。信長只管這遭の軍へ。必勝の响至ると。心と決りられ。これ
 へ。清く見えさせむと。とも。老臣諸士。汗み。咽み唾と
 つまらせ。殿中へ奉會せり。然るも織田殿。其夜の形摸。ハ
 紫羅の輕袍一單と被流し。事も無氣ある相顔。實と
 閑廳み出む。驢くわうして。酒宴とゆふ。老臣達。目と目と
 觀合せ。これを最期の宴ならん。噫痛。やと心と惱り。清盃と
 載く。織田殿。声爽み。何も今宵へ。噲と然。一獻と傾け。樂し

き。輝よと宣ひて。例も異りて。款待とよ。とも。一同も謹俯て。命せの
 如く存亡とも。明日一日と。逼りされ。清晦道。ふもや。ありん。汗
 有。と諸声發し。鬪る。か。け。の酒。醺。ふ。咽。ぶ。を。堪。へ。老臣
 諸士。座列。次。取。小。順。彌。し。既。小。數。獻。ふ。お。よ。ども。軍。の。評。議。ハ
 さらふ。あ。て。君。の。氣。色。愈。増。し。樂。し。け。小。見。え。む。ひ。懸。て。今。福
 太夫。と。り。出。され。異。楓。の。鼓。搥。せ。られ。信。長。と。う。ら。起。騰。り。扇。と
 開。いて。清。声。と。放。され。人。同。う。ら。五。十。年。外。典。の。内。と。ら。ら。ぶ。れ。ハ
 夢幻。の。如。く。あり。ひ。と。び。生。と。う。け。滅。せ。ぬ。め。あ。く。さ。う。と。護。返。し
 護。返。し。舞。つ。謡。ひ。興。ど。む。ひ。て。其。采。後。殿。へ。投。んと。せ。と。柴。田
 勝。家。と。う。ね。君。朝。あ。て。聲。烈。ま。大。敵。既。は。境。面。ある。要。涯
 の。地。を。攻。んと。も。ふ。救。を。む。氣。色。も。さ。く。又。合。戦。の。評。議。も。さ。く。



信長出陣の
悦ば堪を今
福太夫鼓を
搦せ自身舒
手と舞せ
給ふ圖

勝家一圓心おもむきを奈何思しめさるふやと。言まを織田殿ち
 笑ふ。敵境面不進する。諸所の注伸屢るべ。明天こそ
 自身出陣して。如く思決りし如く只一戦不勝負と決せん。何を
 評定為べきぞ。たゞ一丹下の両城は。いま守將と定めさうけり。
 茲へ大事の要涯あり。勝家向うて成るべし。坂井右近。名古屋彌
 五郎。共にかと勦まべきぞ。備亦南の砦と佐久間右衛門尉。
 池田勝三郎。丹羽五郎左衛門。森三左衛門守り之。搦て準備
 せらるべし。随分勵て防ぐべきぞ。夜へ已且と過ぬん。快歩起て
 彼所へ行きたる。予もさし聽て出馬をあるふ。準備よくと宣ひまて。
 衝と寢殿へ投む。勝家信盛。評定と所。眉嬉しげふるち笑ひ。
 實ふ世の中の人。身の身へ。君の謠をせまると。如く。一遭生と託し身の。

滅せぬめや有べきぞ。自も他も一齊に。今宵限の對面をや。命ふふ
 有らむ。独戦なれよ人くと。遮ふ勇氣と烈し。合。自己くふ退去
 して。出陣の志あり。區あり。又手も進軍今川方少。大將治部大輔
 義元朝臣。十八日の夜諸士と哀れ。敵の砦を攻め。其軍配を
 定めらる。まの鷲頭へ富永伯耆守氏繁。遠州相良の城主。朝比奈
 小三郎泰秀と大將と。一萬餘騎。三浦左馬助義次と二陣と
 して。五千餘騎と當向られ。次ふ九根の砦へ。庵原右近大夫忠春。
 田原秀卿八代藤左馬允俊忠の後胤。飯尾豊前守氏茂。一萬餘騎をさし
 たり。俊忠和駿州庵原御小住を後氏守。初ハ維貞といふ。五千騎。速與て後
 陣と。亞ふ葛山備中守勝吉。駿州竹下の住人。由井美作
 陣とも。而して義元の本陣と。江間左京亮成親。石領。由井美作
 守友政。駿州田中の城主。関口越中守高重。駿州瓦沢城主。富塚修理進勝氏

三千五百 温井藏人宗次朝比奈藤九郎昌時石川新左衛門春時
 石と鐘を 已下一万六千有餘騎もて左右と守り列伍する。亦本陣の左に
 松井五郎八宗行遠州二股の城主二百餘騎もて左翼と張右の方より朝比奈
 備中守遠州掛川濱五百餘騎もて右翼と張今川勢へ斯の如く。
 海とも山とも壁をめぐり目も洩さず大軍をね。新隊ともて容換い。
 尾州方の要涯と。偏端より攻利さんと唾津と吞で待たふ。夏の
 夜の曉易く。左右亦黎明鄰さけるが。軍の準備辨ひし。今川勢
 三万餘騎九根より頭と寅の刻卯の刻兵糧と喫し。卯の刻報ると同號と
 して。奔軍の烽火と放つや。人馬一齊亦奔し。鷲頭九根を推
 進す。程さへ幾さふ攻足の。それと魁を馳せし。瞬點ふ二万餘
 騎若きらうと去くと進まざるや。魁兵の隊伍。鳥銃一途よろら

うりく。温起其下より鎗節間と作りし。擧るる息とも継ぎ
 一攻小攻滅せし。嘖と声ふて揉起る中。小流て織田の勇士佐久間大
 学盛重が守りし。九根の此を向ひし。庵原右近大夫忠春飯尾
 豊亦守成。辰一万餘騎と牽従へ隊伍と龍蛇の如く。列ね舊く
 然とて推寄る。續て後陣の葛山備中守が五千餘騎先隊不
 合をる。喊の声。山鬼と噪が。海神と驚る。今や大地も顛る。
 うと疑ふ。小をりの勢。威して城下迫く。あらず。未だ烈しく下。細る。
 三方より。僅五百の窄城と。揉起る。所觀ハ。磐石とめて。雜卵と
 塵より。も猶危し。けり。然ども守將佐久間大學目眩く。わとの
 大軍と。春蟻出る。虫煙とも。ちゆいで。五百餘人心と。一より。自分さ。この
 固場と。窄り。炮弩と。放ちて。勢猛く。大水と。成て。を。防戦小。征る。

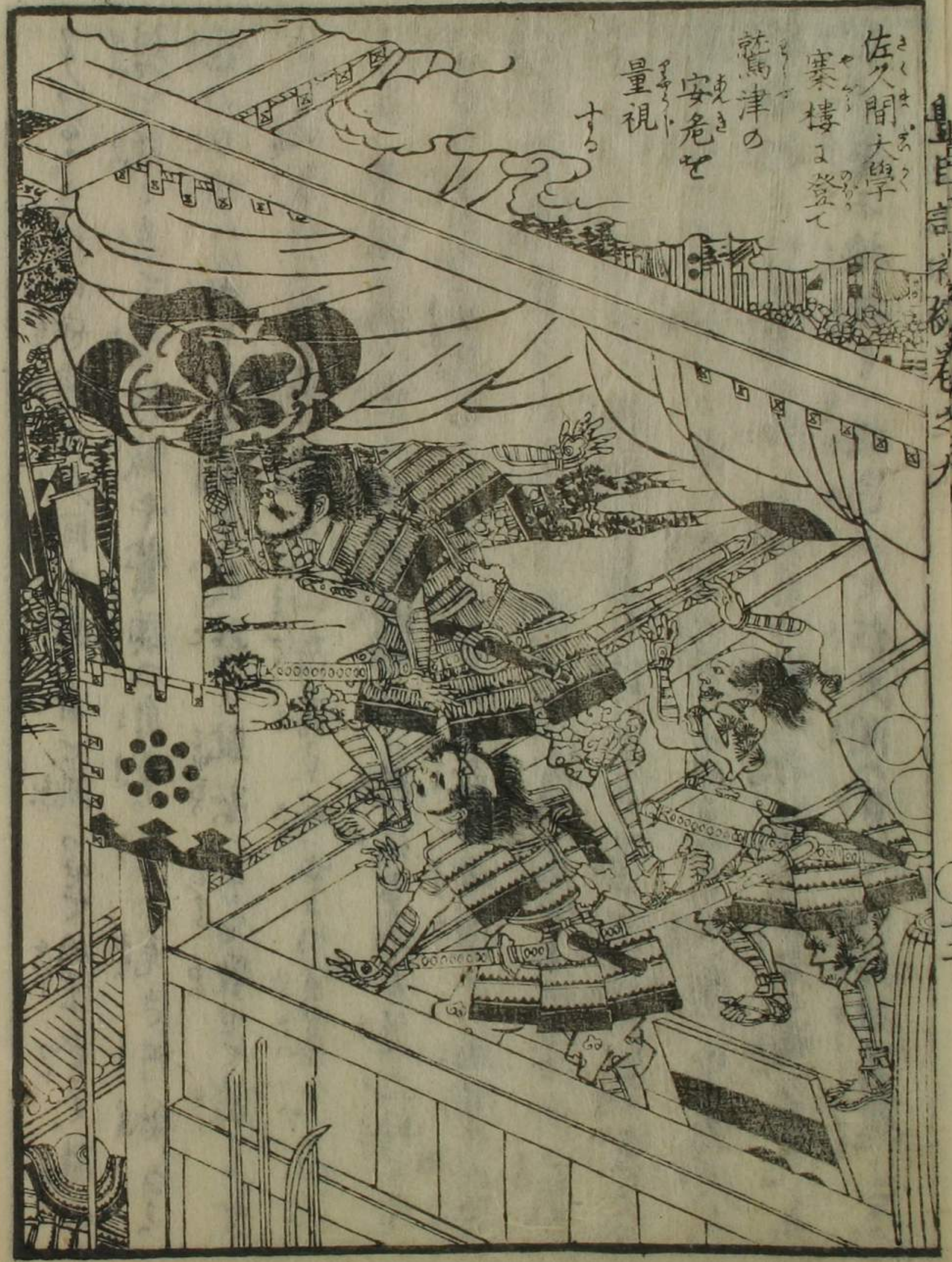
海道小名も高き庵原飯尾が猛軍勢防ぐ八尾州小所見えあふ。
 佐久間大学も若くは、雙方必死の戦ふてのつ果つるとも見明しそ。
 剛戈の進兵も若くは、猶豫の看えざる所と。佐久間大学
 見沈して進兵ハ既小浮足るぞ、這と防りや兵士們と頻小指
 揮して勵ましけり。又手亦鷲頭の此やハ富永朝比奈三浦え
 と。一万五千有餘騎みて、去くと推捕卷篁策とつけ鳥銃ちうけ
 無二無三小征起れば、若の大將織田玄蕃馳卒小指揮して
 防ぐとども。進兵ハ雲霞の像くみて際際わくせむ打圍む小
 城中の兵士膽と冷し。統ハま我小わくで狼駝で駈廻り。落馳
 駿のまあつと進兵ハいしく氣小来と。息とも吹せむ攻起し
 守兵も方僅ハまりつね。墻と打起岨と傳ひ。落行門家多

りけり。九根の守將佐久間大学。身と跳らせむ擡小登り。隣
 けりと脱と看て。噫朽憾や鷲頭の自軍。最も危き所跡あり。
 氣田刀移へつとみぞ。氣き彼此を馳敵ハ力と勳せて濟せ
 る。進敵のつらる周の韻つと。山岳喬く所ゆる。玄蕃元ヶ歐れ
 一あや。鷲頭の此墜もせば當城のや。雅儀あり。方僅二時も踏
 堪む。君の清出馬あまき小熱まね敵と破崩し。自軍の因運
 時至らん熟責むや。氣田刀移と馳せむ烈まきるや。氣田
 犬千代一義も多。強敵と見て進むこそ。勇士の望む本意なれ。
 綱や足下の下知つと。何と背きりよまき。噴煙やと調来小
 鐵推把の飛電の如く。糟毛の駒小打跨り。左右の鞭ひきまき。
 発の醫小捨扱と一揺動ると佐久間ハ見と。大張雄士の薨と

豊臣氏切腹巻之九



佐久間大學
寒樓に登て
驚津の
安危を
量視
す



豊臣氏切腹巻之九

足下をこの武士がせめて西之鷲頭よりいへ。然すも本社軍の倣
 ず噴朽滅しや弱輩の膿病神より引る。奉止様のうそを
 さよ然る急がせむ之。此石と出さしむるせん。とらうく魁子馬と
 騎出。服部玄蕃。渡邊大内藏。二勇士左右副従ひ茶田と
 中央より推連て。城門八文字より呀くと両き佐久間大守正魁小驅
 発群集敵の直心へ。烈風の像へ翔蕩る。進敵へまき責巴果
 で。隠れらひ在る所をね。這勢小機と呑き左右と拏別る。
 茶田継て駈さううへ今川勢へ取次ふ。路を用て通しけり。
 茶田維ろく突抜て。鷲頭の城へ馳着着。城中果して將卒
 借子。早くも城と落遁て。中島の方へ意當し逃往むと適さ
 と。今川方の朝比奈三浦。嚴く這と追歐を。又富永の自兵

不知る。鷲頭の城に投換り。持固るる所をね。茶田頼み氣を
 焦ち。一刻早く新計を。拙く城へ入りしもの噴朽滅しや
 断腸しや。と膝断とさして怒り。切て當の敵將と一個より
 とも伐捉て織田壯士の綱と親せん。獅子奮迅の猛威とみし。
 敵の傍際より棚駆り。觸るふ信せて突発す。今川勢へ勝ふ
 乗。隊伍と紊し逐蕩る。厥直心と犬千代か。思ひもよむ横
 抜より。縦横無碍と鎬まふ。今川勢へ右顛左倒も時小敗將
 織田玄蕃。逃足駈りて後面晒顧。誰何ふ知らね。自兵一人
 踏躰て戦ふ健勝さ。伐を兵輩助帮よ。四五十人なり。み
 吐と嘔て把て返。カと勅せて戦ふ。茶田のう。雄氣と増し
 三人五人傾率鎬。或は鎧の鳩胸も。近親敵と蹴翻。四角

八面不搦巡ると富永伯耆守が部下より。松山新吾との
壮士鏖把舒て跳出十分捷う軍を敵一人不搦起られ
自軍のかくまで敗走する。最朽滅き痺ふこそ。赤田を
歐て敗軍の諸士う耳同と覺させられんと。騫地驅み突蒐る
犬千代へ今天と期と。命惜きを極きし。良能もやと云ふ
穢會新吾が突発を槍尖の銛きと看て強泰多。汝も
响ふ心ありて。鎗と合まる殊勝さ。鏖ハ斯こそ搦ふりの
され。受て冥途の自餽よせし。と侍合せて丁に発止。突つ
拂ひら刎却し。新吾も名爛る剛の兵此も緩まは修練
と盡し。宴時ハ挑闘ひし。赤田うも精不腕疲れ。稍逃
槍不倣けりと。赤田得うと。鎗容々際際もあを責経

一が。いりる。新吾が鎗千檀巻より折ければ斯へ
と馬と騎下。太刀と抜うんとせし。とちと赤田大喝一声
鎗さ一のを。新吾が太股鞍も徹とと云う。搦。鎗とて
微も堪らばこそ。騫道は馬より墜る。見ると前田跳
却。推匾て首と搔破り。前輪ふこれと搦着。若ひ馬
うち騎て。逐来る敵と待合とも。這威みや怖とけん。吐と
喉て牽返す。み玄蕃允も辛よと。中島の方へ牽退く。
前田ハ新五の馘把あげ。筆立の筆と搔搦と。前田某
周王系への自餽る。と記せし碑と馘み着。一人の駈卒
ふこれと齎せ。大将の實檢ふ。備へさせむられ。と木下陣
頼と遣其信馬と搦て返し。丸根の城へ近づき観と

豊臣巴野圖



前田大十代
藩の落城を
腹を戦中
木下ノ許へ
餓う圖



豊田記

斯のいふせん此若疾くも敵を奪えられざる

織田信長出陣祈熱田社属社前觀靈

昨日の夢の黃田も。今日へ變とて臙血の混くと流る行相い
紅草隴よりも輻うりき。山林郊野も鏗連ね。兵器のうきふ。
幾千万嫌田の針より夥りけり。然るやとふ九根の此若い。
庵原飯尾が一万餘騎。隊疾くこれと征けるやとふ。佐久間
大學三百餘騎。魚鱗みそとて突突さ。今天と期と戦
あさ。今川方の壯士輩。軍も熟した功の兵も必決死程を
敵と。後陣葛山が新兵も通喚。厩や此若も擁投と佐久
間が隊伍と断切て。烽火の係り攻まら。然とも死憤の佐久間
盛重。隊任と大車の如くも懸す。此若も搦らんとひりめき。茲

飯尾が勢の後より。援をせりと探崩ま。これかあるも豊前守五千の兵
と取て返す。佐久間と中も推捉稠。一士も餘さば歐捉と攻着る
隙も庵原右邊。同とく五千の兵も下あさ。塙と跨踰跳越。雜
々扶寨も乘入り。攻起るも若の兵士一足さるも挑戦し。
一人も残らむ戦死も。右邊も僅も瘳と負されど。遂も此若と乘
扱と。諸城外も佐久間大學。今川勢と砍拂ひ。此若も取て
還らんと探起り。戦へとも。敵の涯畔もき大軍も。強隊の兵と
容換り。東西南北一寸も及らざる所あり。歐とも棚も破れ
こそ。方僅と最期の响ありと心と決して戦へ。雄氣敵も十倍
あり。瞬點も敵兵の亡骸と山も積りける。然と自兵も多
歐と。佐久間服部渡邊倚心も猛くをりれども。身鐵石も



丸根の城
 陥る小
 益とて
 佐久間
 大學主從
 戦死の圖



されハ太刀癡箭癡駭。總身赤ハ紺糸の。錐も方僅ハ朱と
斐。馬さ、鎗さ、失て、太刀も漸く、あま、来つれハ、鏃擦
銃具ハ推當。曲ると直くと、砍捲。腕筋脚骨、疲累
乱軍中ハ戦損。斯る所、前田大千代、鷲頭の戦場
より、把て返。佐久間大守と一隊ハ合方、僅一戦せんもの。
鞭ハ鎗と、うち合せ。騫、小驅来。此の上ハ、庵原
右近ハ、旗標、喬く、籠り。佐久間ハ、印の、鎧被。殘兵諸、所
小歐。且、一ハ、怜哀。佐久間も、戦死せ。岩の上ハ、敵の大軍
愉快。又、連び、斬て、入。路も、一。縱令、雄氣と、烈と。
這ハ、砍投、戦損。證人ハ、いけ、れ。その、詮、な。我君の
濟、大事ハ、今、より、後、こそ、肝、要、な。れ。と、慮、轉、と、又、荐、び、馬、ハ

鞭、うち、素、来、一、路、と、中、島、當、と、牽、退、く。這、ハ、今、川、義、元、朝
臣。桶、峽、河、の、郡、地、を、田、樂、窪、ハ、陣、と、攝。輕、隊、の、戰、い、を
あ、ら、ん、と、注、伸、と、待、つ。鷲、頭、九、根、の、兩、岩、ハ、既、朝、驅、來、取
て、贖、九、根、の、大、將、と、佐、久、間、大、守、と、歐、取、と、あ、ら、ん、ハ、不、敵
とも、多、く、齋、せ。實、檢、ふ、れ、く、大、將、愉、快、ふ、ら、ち、笑、ひ。然、る、を
あ、ら、ん、き、縛、な、れ、と、極、り、る。喜、悅、を、一、樽、と、開、て、使、者、と、搗、ひ。
諸、士、の、勲、功、と、賞、し、け、し。屢、ハ、借、圖、清、洲、勢。柴、田、佐、久、間、本、據。
池、田、坂、井、あ、ん、の、武、兵、大、將、二、千、餘、騎、を、出、陣、す。丹、下
西、城、の、要、涯、へ。隊、部、と、争、て、進、發、を。又、手、十九、日、ふ、り、
ぬ、る、が。織、田、上、總、分、信、長、ハ、例、より、靜、晏、と、起、出、ふ。い、晨、の
縻、ると、喫、む、る、所、へ。鷲、頭、九、根、の、注、伸、來、り、落、城、せ、と、

若^しまわ^りまれと。驚^{おどろ}き^まの^も色^もも^も。雄^{ゆう}兵^{べい}と^して^し清^{せい}旗^き小^{せう}標^{ひょう}騎^き重^{じゆう}
 め^めと^と出^いされ^れて。既^{すで}に^に鑑^{かん}と^とめ^めと^と所^{ところ}へ^へ木^き下^か秀^{しゅう}吉^{きち}奉^{ほう}朝^{てう}中^{ちゆう}。存^{ぞん}ま^まる^る音^{おん}
 の^の多^たく^く。熱^{あつ}田^{でん}の^の宮^{みや}中^{ちゆう}を^を清^{せい}先^{せん}へ^へと^と待^{まち}て^てま^まら^らん^んと^と言^い状^{じやう}し^して。
 馬^まみ^み打^{うち}騎^き馳^ちけ^ける。織^お田^{でん}殿^{でん}さ^さら^らば^ばお^お突^つ入^いん^んと^と命^{めい}ふ^ふ通^{つう}士^し守^{しゅ}害^{がい}兵^{へい}
 螺^ら貝^{がい}の^の声^{こゑ}天^{てん}高^{たか}く。碇^{いかり}と^と吹^ふ起^きし^し。勇^{ゆう}一^{いつ}く^くを^を見^みえ^えふ^ふけ^けれ。
 此^{こゝ}る^る小^{せう}城^{じやう}中^{ちゆう}の^の諸^{しよ}軍^{ぐん}勢^{せい}。前^{まへ}夕^{ゆふ}の^の酒^{さけ}宴^{えん}ふ^ふ心^{こゝろ}緩^{ゆる}み。刺^さり^り打^{うち}解^{かい}
 過^とし^しと^と見^みえ^え。螺^らの^の韻^{いん}己^{こゝろ}ふ^ふ了^{りやう}と^とれ^れども。出^い参^{さん}り^りぬ^ぬる^る輩^{はい}へ^へ。六^む七^{しち}人^{にん}ふ
 過^とさ^さり^りけ^けり。織^お田^{でん}殿^{でん}と^と見^みぬ^ぬと^とま^まて。馬^まと^と騫^{せん}地^ちの^の驅^かを^をせ^せむ^む。
 熱^{あつ}田^{でん}の^の宮^{みや}の^の旗^{はた}屋^や口^{ぐち}まで。三^{さん}里^りの^の道^{みち}と^と一^{いつ}駈^かふ。息^{いき}も^も吹^ふせ^せと^と馳^ちむ^む。
 這^{こゝ}ふ^ふ待^{まち}せ^せる^る小^{せう}隙^{げき}ふ^ふ漸^{あや}次^じ同^{どう}勢^{せい}馳^ち着^{ちやく}て^て三^{さん}千^{せん}餘^{じゆう}騎^きを^をさ^さら^らふ^ふけ^ける。
 木^き下^か藤^{とう}吉^{きち}郎^{らう}秀^{しゅう}吉^{きち}。預^よて^て這^{こゝ}場^{ちやう}ふ^ふ待^{まち}り^りぬ^ぬせ。合^あ戦^{せん}の^の勝^{かち}利^り祈^{いの}り

の^のつ^つめ。願^{ねん}書^{しよ}と^と社^{しゃ}頭^{とう}ふ^ふ呈^{てい}けん^{けん}符^ふ。然^{しか}る^ると^と言^い上^{じやう}せ^せう^う右^う筆^{ひつ}職^{しやく}
 する^{する}竹^{たけ}井^い夕^{ゆふ}庵^{あん}。渠^かと^と召^{めい}されて^て記^きせ^せり^りぬ^ぬ

敬白祈證文

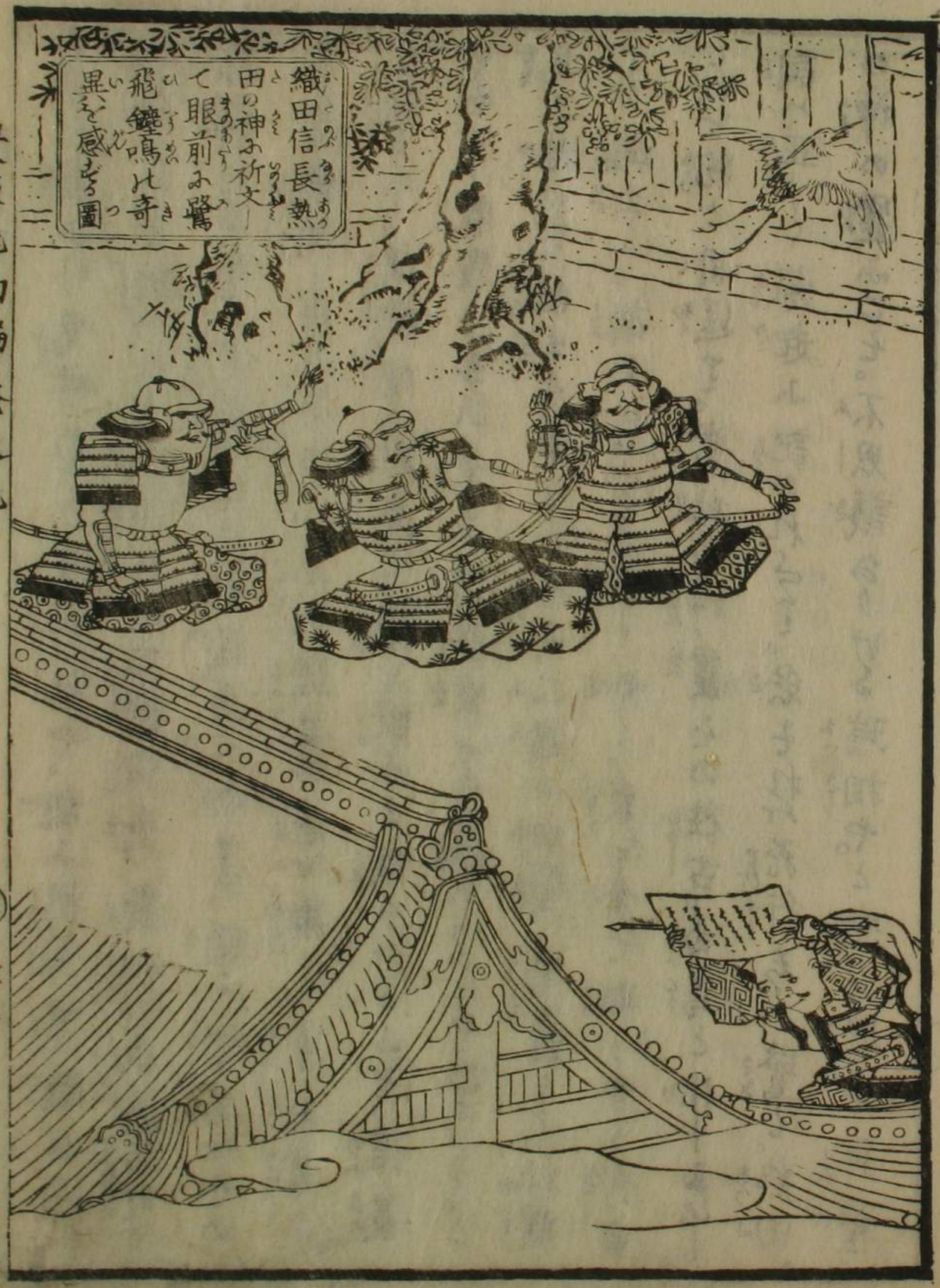
夫^{これ}以^{もつ}當^{あた}社^{しゃ}之^の大^{おほ}神^{かみ}者^{なり}。累^{つら}代^{たひ}聖^{せい}主^{しゆ}之^の曩^な祖^そ。朝^{あさ}に^に鎮^{ちん}護^ご之^の
 靈^{たま}神^{かみ}也^{なり}。昔^{むかし}征^{せい}夷^い狄^{てき}之^の凶^{あや}賊^{ぞく}。今^{いま}守^{まも}家^か國^{こく}之^の久^{ひさ}盛^{せい}垂^た跡^{あと}於^に
 東^{あづま}海^{うみ}之^の邊^へ域^{ちゆう}。中^{ちゆう}信^{しん}長^{ちやう}荀^{じゆん}烏^お平^{へい}相^{しやう}國^{こく}綿^{わた}々^々瓜^{うり}瓠^こ受^う生^{せい}於^に
 弓^{きう}馬^ま之^の家^か。僅^{わずか}繼^{ついで}箕^{かき}裘^{じゆう}之^の業^{わざ}。以^{もつ}來^{きた}遠^{とほ}悔^{くわい}先^{せん}祖^そ之^の無^む道^{だう}近^{ちか}
 憂^{うれ}叔^{しゆく}世^{せい}之^の極^{ごく}亂^{らん}。而^{しか}欲^{ほつ}再^{また}興^{きやう}帝^{てい}都^と之^の衰^{せい}微^い。拔^ひ國^{こく}家^か之^の憂^{うれ}
 患^{うれ}。仰^{おほ}君^{きみ}於^に堯^{じやう}天^{てん}。住^す民^{たみ}於^に舜^{しん}地^ち之^の外^{がひ}。素^す懷^{くわい}非^ひ他^た。中^{ちゆう}干^{かん}茲^{こゝ}
 源^{げん}義^ぎ元^{げん}起^き駿^{しゆん}豆^{とう}之^の間^ま。振^あ威^い遠^{とほ}二^に之^の内^{うち}。犯^か近^{ちか}鄉^{きやう}遠^{とほ}里^り破^や
 却^か社^{しゃ}燒^や亡^{じやう}民^{たみ}屋^や。任^{まか}我^{われ}意^い而^{して}不^あ敬^{けい}。獻^{けん}慮^{りよ}不^あ須^す台^{たい}命^{めい}。妖

孽日盛日茂葛藟相連無奈之何有芽葉不剪則却
加斧斤之愁今既牽強兵猛卒犯尾陽之境地如是
也彼多勢及四方有餘此無勢僅三千不足以寡對
衆恰似螳螂當車轍同蚊子咬鑊牛非單頼當社神
力爭得勝之乎傳聞日本武尊之古亡東夷於蒲
原也嘉兆如合符契速誅戮凶徒於目擊之間必矣
仰冀水火之兩石隨宜施靈驗八劍之銳刃斬衆賊
之首立滿所願伏捧一矢鎬以準西林之禰祭蕘繫
之祝奠者也今此舉義兵者全非私用私欲為起王
道之衰救民間之危也玄鑑莫誤仍願書如件

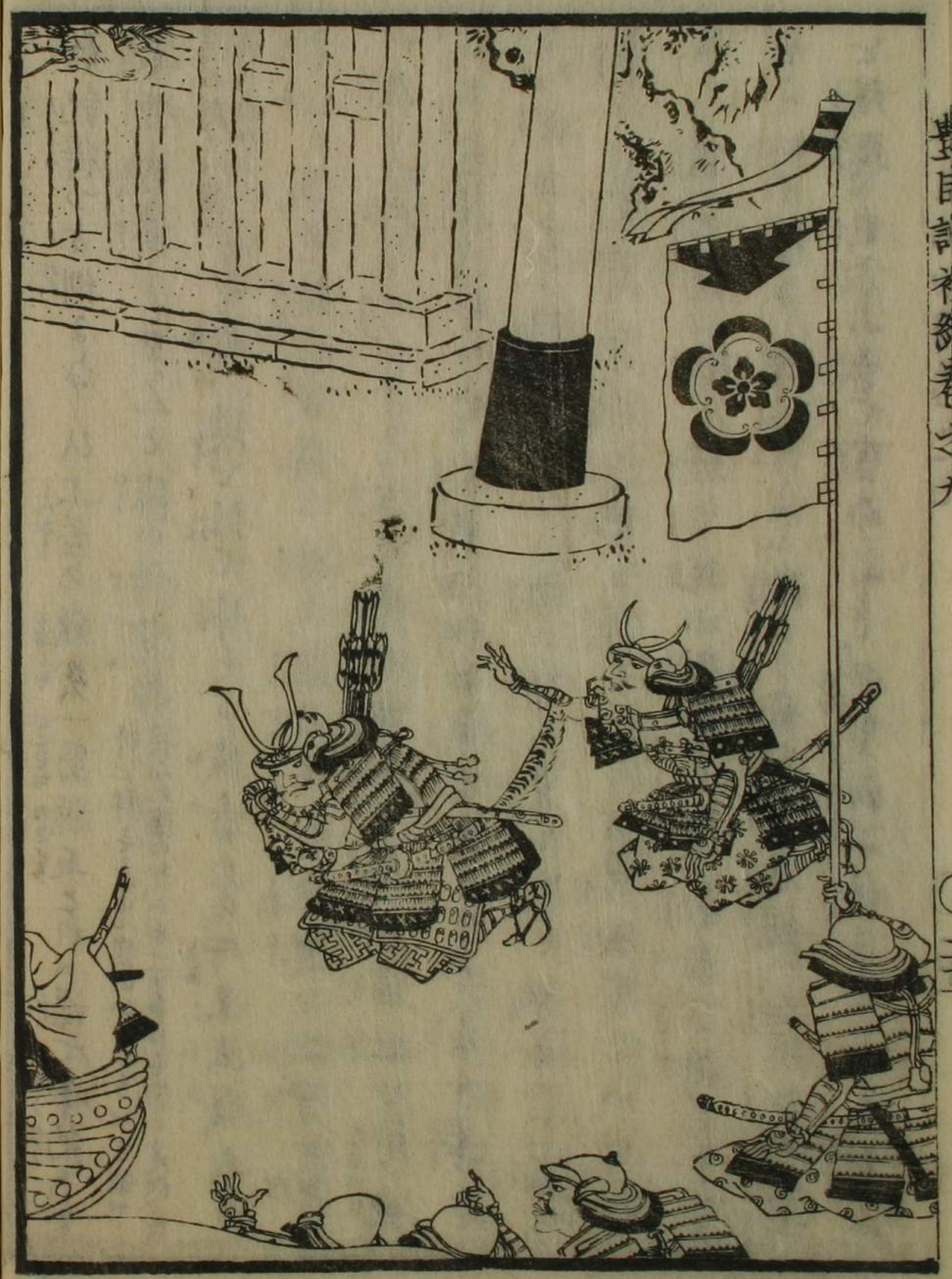
永祿三年五月十九日

平信長謹白

斯記得つ古例より上差の鎧矢一筋脱取これ小添て奉納あり
要時念禱しと陽の神請拍神と拜するも先陽のかたよりと三拍下
後より陰のかたよりと三拍下是則三
陽の教二階の教るればなりうち鳴。頸と低て拜する機會うら。吁不思議あり
本社の内ふ。鏗の音高く听え。忽然として社頭と出。東に向ふ
て馳るが如く听えり。木下秀吉躍上て馳立。當社へ所地
日本武尊ふおたりて。東夷征伐の勲功より。是も最も尊き
清神あるふ。唯今听えし鏗の音の東と當て馳立の。取も
整と東夷する。今川勢と哥しと。靈驗ありし疑ひ
る。眼前斯の如く。神力既ふ加たるる。敵幾万騎あるふ
せよ。何う怖る。輝あらんや。敵より突つ弓鳥銃ハ却て敵の兵士
と殲殞。自方ふ曾て害ある事。吁賢神不偽るきものを疑ふ



豊臣日記編卷之九



豊臣日記編卷之九

人こそ畏られ。嗚呼ありが言神徳や。現ふ掲焉靈驗あり。と
 再拜してぞ歡びける。此激言ふ大将信長。數行の感涙由敢と
 禮拜するところ度。陰の神送ふ二拍せり。浩る奇瑞とすの
 あら。觀聞ける軍兵們忽地隨喜の色と顯し。勇氣凜々
 と猛りつ。收戰場へ馳着て。敵と闘んと喘りけるもぞ信長
 せましく驍躍しむ。先さらば奔軍せん。我ふつけやひとごと
 馬ふ拍りれ。駘出さんむする所ふ。二頭の白鷺鷹轟して。社頭
 より翻出し。旗は結ぶ導く如く。東と當て翔りゆく。秀吉
 これと眈と目送る。當社の神靈その往古。白鳥と化しむ
 詞へ正しく録起ふ記されし。然まれば飛行する鷺も熱田
 の神の靈ふこそ。不思議ありける瑞相や。と兎を脱ぶ拜禮

まれば。是と觀つる諸軍勢。すましく神と憑まのらせ此取
陳篇
 之一説曰。桶狭間之役。信長。謁熱田神祠。禱之。曰。駿兵。白方。既陷。數城。勢吞。中國。士卒。戰栗。不知。謀所。出自。非假。神威。以。逆。擊之。豈。可得。勝。大敵。乎。因。願。軍士。曰。願。欲。以。錢。上。試。雄。季。今。所。投。數。錢。皆。形。孤。必。大。捷。若。無。則。議。和。正。馬。耳。此。明。神。之。心。也。祝。了。手。自。擲。數。錢。於。幣。櫃。使。左。右。抗。火。祝。之。乃。其。錢。皆。面。時。神。宮。中。忽。聞。鳴。鑼。士。卒。感激。勇氣。百倍。信。長。亦。大喜。明日。進。兵。大戰。于。桶。狭。間。一。奉。獲。敵。將。義。元。首。級。蓋。信。長。好。詭。計。竊。用。兩。面。錢。獎。士。卒。又。以。鳴。鑼。誘。衆。心。而。已。
 驍進んで駘つける。源大夫の宮尾張氏の速祖の茶。東の方と
 眈と望む。黒煙天ふ霞ひ。火勢八方に散乱して。物まきまどく
 見えたり。正しく鷺津九根の扶寨。とや落城とおぼへし。と
 と織田殿。志きり小燥焦む。速地ふ彼所へ馳向ひ。敵と撃
 べいと宣へとも濱路と通し直途へ。機會辰の正中あれば
 潮まぐと進満て。通ひぐきと奈何ふせん。然らば笠寺の東
 ある細畷とゆけやとて。接小操てそうちみよ辰そる頃丹下

ある扶塞ふ着うせむひければ。柴田とくらり窄城の諸將君
 と迎へてまうり。悦賀まると限りか。禰て木下藤吉郎と
 謀りむひ一変るね。中島の扶塞と。當て急進せんと宣ひ
 するを。柴田大制一まうせ。中島とわかい所へ左右回
 深く路窄一。彼所とくせむ時。尙敵遂ひまわらせむ
 進退殊小雜危あり。糾や中島の地勢よあいて。防戦の便
 最夕一此所不在一うて。済合戦こそ然るべけれと頼小
 勉めまわらせむと。信長柴田と迫く。昭と声と悄めて宣ふやう。
 彼所不見ゆる。阜ふつと。暫く自軍と伏置つ。敵と本道へ
 行過一山崖かふ徑路より。今川義元の本陣、斬投らんと
 かのふら敵ハ鷲頭丸根と落し。勝ふ乘て勢猛く。無碍ふ

進んで進來らん。然まれば。亦小隊様と。五ヶ所の此兵有るらん。彼
 所みヶ所の此若落る。這西城小進発る。勢ハ定めて戦へく山とも崩る。
 いまひひら。汝係強這地小防が敵ハ一時小攻落ると諸勢と
 増して進來り。功善と争ひ戦ひるん。尙もらん中義元の本陣殊小
 小勢小して。必定無明の酒小酔ひ。生船あらん其處へ。鳴と鎮めて
 推進まば奈何て。大將と成さんや。唯け城を敵とあいらひ。氣長
 く防と要とせよ。熟心うやと宣ふ。權六大小甘心を。斯る奇謀の
 うへ。小居いふも。這所一敵と拏併せ。胸長く持堪へ。稟べ。其間小進させ
 るやと。速ふ是と濟奉り也。柴田ハ戦場小向や。丹下の城。信長の旗
 馬標と樹られ。外見小是と見る。胸ハ織田殿這小揮ると。敵ハ自軍の
 見做らう。又善祥寺の北小中で。鳴海より。熱田ハ通小路あり。這ふ



豊臣巴刃編卷之九

二五



信長
間道
發
桶峽
殺突
せん
谷

豊臣巴刃編卷之九

二六

織田大隅守と大將とて。林佐渡守。梁田出羽守。備一千餘騎。是ふ江州の
 加勢一千五百騎と添て。是ふ敵と八方引散んと謀計あり。然して
 信長中御より。山の腰ある徑と巡て。敵の背へ突くと。僅小五百の清自兵山の
 峽に隠潜。敵の先陣と行過さんと。人馬音せで待とたり。這時木下藤吉郎
 へ中島のけ石を投り。藤田大千代。面會あり。鷺津の軍。小松山新吾。敵
 捉とる。始末と所。大悦で此と賞あり。然ば是より。鳴海ある。織田信
 廣が戰場。小至り。忠義と勵す。敵と撃て。猶も功名あり。どのいふ得
 たりと。藤田大千代。藤吉郎。小別とつげ。大隅守が陣所と當て。馬と駿
 らせ。駈行ける。

繪本豊臣勲功記初編卷之九了

